

■ 1、2年生11人がNFL基準で体力測定

北海道学生アメリカンフットボール連盟主催の「新人コンバイン測定会」が7月13日、札幌市円山競技場で行われ、北海学園大、北海道大、北海道科学大、札幌学院大の1、2年生部員11人が「NFL基準」の5種目の体力測定に挑戦した。

測定会は当初、高校生を対象にした「クロスオーバーアスリート測定会」として、日本アメリカンフットボール協会が計画したが、参加者がいなかったために中止に。これに代わる形で北海道学連が、光電管など専門の測定器具を使い、道内大学選手のデータ収集と能力向上に役立てる狙いで新人測定会として実施した。測定したのは垂直跳び、立ち幅跳び、40ヤード走、プロアジリティ、3コーンドリルの5種目。いずれもNFLが新人発掘のために実施する「スカウティングコンバイン」での測定に準拠した項目だ。



開会式では若松純一北海道学連理事長が「データをチームに持ち帰り、ボトムアップに役立てて欲しい」と選手たちに呼びかけ、日本協会の森清之常務理事も「身体能力を客観的に把握できる」と測定の意義を説明した。

測定は、Xリーグ・富士通フロンティアーズのトレーナー経験もある田中僚氏がそれぞれの狙いなどを説明して実施。40ヤード走ではNFLやXリーガー勢には及ばないものの4秒台の好記録を出す選手もいた。田中氏は「0秒1縮めると1ヤードに相当する。自分の力を知り、次のステップの第一歩に」とエールを送っていた。

(学連広報委員 塚田博)

